

令和5年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300483	事業の開始年月日	平成30年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ川崎たちばな		
所在地	〒213-0023 神奈川県川崎市高津区子母口999		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和 5年 12月	評価結果 市町村受理日	令和6年4月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	<a href="https://mimoza-care.com/facility/group-home/post-1249/">https://mimoza-care.com/facility/group-home/post-1249/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」各ユニット9名ご利用者に寄り添った介護を提供しております。各フロア専従のスタッフが日々のご利用者様の様子を注意深く観察し状況変化に対し職員内で相談共有しながら往診医と連携を取り、意見を頂きながら対応しております。ご家族様に対してもご利用者様の様子を連絡し対応しております。
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川県福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年3月27日	評価機関 評価決定日	令和6年4月1日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇充実した医療連携 協力内科医の月2回訪問診療があり24時間対応可としている。職員が毎日バイタル測定し、訪問看護師が毎週健康確認をしている。協力歯科医の月1~2回訪問診療と歯科衛生士の口腔ケアがある。他科の受診には家族が同行し、診断結果を協力内科医に伝えている。重度化した場合は協力内科医、家族、事業所が密に連携し適切に対応している。 ◇適切なケアと職員育成を目指した研修体制 年間の30分研修計画があり、職員は認知症の理解、接遇、プライバシー保護、虐待・身体拘束の排除、感染症予防、事故発生時の対応、倫理・法令順守等を学んでいる。又、職員育成の為の様々な内部・外部研修案内を設置法人から受け、ケアに関する基礎や応用編コース、資格取得研修案内があり、職員育成を目指している。 <b>【事業所が工夫している点】</b> ◇居心地良い空間造りとADL低下防止対応 コロナ禍で外出がままならないが、リビングで季節を感じる飾り付けを工夫し、行事を感じる食事やイベントを企画して、利用者の共同生活を居心地良くしている。 ADL低下を防止すべく、職員は利用者とは絶えず関りを欠かさないように何等かの支援をしている。事業所内歩行、リビングで毎朝の体操、天気が良いときは近くの散歩や外気浴、可能な範囲でテーブル拭き、洗濯物たたみ、ジグソーパズルや塗り絵等、様々な機会を提供し、変化のある生活を実感するように支援している。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ川崎たちばな
ユニット名	2階 うめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に作成された事業所理念を事務所内に掲示して職員間での理念の共有を行っている。フロア会議でも理念を振り返り話し合う場を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所理念「おうちのような居心地の良いサービス提供」を事業所内に掲示し、さらに「介護の心得」を各フロアに掲げ、全職員はこれを行行動規範として介護に当たっている。</li> <li>・職員はフロア会議で理念について話し合い認識を新たにしている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在行えておりません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会に加入し、地域の一員として情報を得ている。</li> <li>・コロナ禍が落ち着いてきた現在、夏祭り頃から地域行事への参加、地域交流室の活用等を検討している。</li> </ul>	コロナウイルス5類移行後の現在、町内会行事への参加、地域交流室の活用、ボランティアの受け入れ等を徐々に再開することが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行えておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で中断していた促進会議は復活し地域包括、民生委員、併設の看護小規模多機能の管理者と情報交換を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2か月ごとに自治会長、民生委員、地域包括センター、利用者家族により、対面での開催を始めた。</li> <li>・事業所の運営状況説明、行政や地域行事等に関する情報交換をし、コロナ禍が落ち着いたら地域との交流を企画することを話し合っている。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市高津区の他の施設と行政の方を交え2か月に1回情報交換の場を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高津区役所の職員と密に連携している。生活保護課職員と生活保護受給者に関し情報交換している。</li> <li>・川崎市グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に一回「身体拘束廃止委員会」を実施し、身体拘束の発生を未然に防ぐように話し合いを行っている。研修に関しては年に2回行っている。	・「身体拘束排除マニュアル」「身体拘束廃止等の適正化のための指針」があり、2か月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。 ・30分研修で身体拘束排除について学び、ケアに反映している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、研修を実施。どのような事が虐待となるのかを詳しく学び、理解を深めてもらっている。	・高齢者虐待防止マニュアルがあり、30分研修で虐待につながる言動について話し合い、学んでいる。 ・虐待の恐れがある言動を見かけた場合は管理者から注意して適切なケアを目指している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度に関しては、必要と思われた方には管理者が提案を行い相談の上以降している。職員に対しては特に研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約に関して必要な事を説明している。不明点があればその都度質問を受付納得して頂き特に金銭の事柄に関してトラブルを未然に防ぐため、丁寧な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の要望に応えようと、毎月生活状況を報告しご利用者様の写真を送っている。ご利用者の意見やご家族の要望はケアプラン見直しで取り入れている。	・コロナ禍で面会を制約している中、利用者家族の要望に応えるべく利用者の生活状況報告と写真を毎月送り、意見や要望を聞いている。 ・利用者、家族の意見や要望は、可能なものは運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や施設の改善点は毎月のフロア会議で話し合っている。ご利用者のケアに関しても、気付いた事があれば職員全員で周知できるようにアイパットの申し送りで入力し確認できるようにしている。	・日常会話、フロア会議、ケアカンファレンスを通して職員意見を把握し、可能なものは運営に反映している。 ・賞与時期に職員評価について管理者が面談する機会があり、意見交換している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップのプランや社内の人事関係の制度、給与支給の内容を閲覧できるようにやりがいのある職場に工夫している。	・設置法人の報酬制度として、個々の能力、資格に応じた給与体系がある。 ・管理者は職員への面談を通して個々の努力や実績、仕事へのやりがいなどを把握し、就業環境の向上に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的な資格に関して、受講費の補助や有資格者の優遇がある。	・設置法人の研修や外部研修への参加を奨励し、介護専門資格取得、職員の能力や意欲の向上に努めている。 ・年間計画の30分研修、更に必要と思われる項目について事業所内研修を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム管理者の話し合いは2か月に1回も設けており役所の保護課の方と地域包括の代表者も出席されている。同業者の情報を聞く事によりとても参考にさせて頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査の際に、本人の不安や要望に関してヒアリングし、その際にご家族やケアマネからも不安や情報を収集し信頼関係に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査や施設見学の際にご家族から要望や不安をヒヤリングしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム内で完結させる事を原則としつつも、訪問マッサージなど個々の必要性に合わせた外部サービスの活用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ごとの様子を見つつ職員が行う業務の一部を手伝って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の意思を尊重しつつ協力頂ける事があれば助力をお願いしている。(ご利用者様の栄養補給食品、好きな食べ物等)		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員の方から積極的に働きかけてはいますが、ご依頼があった時には要望をお聞きしお応えしている。	・コロナ前は家族の付き添いで馴染みの店や美容院、外食などへ出掛けていた。現在、面会は玄関か地域交流室で、短時間で行っている。お願いしている。職員は電話や手紙の取次ぎで利用者を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の相性を見つつ、話の合いそうな方同士を近くの席にし、安心できる環境づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了の主な理由は、ご逝去、他病院への転居、他施設の移動。その際は転居先のケースワーカーと連絡を取り対応に注意する点などお伝えしております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者から何か希望があれば危険や無理のない範囲で応えるようにしている。またご自身で意思を示す事が難しい方に対しては本人の様子を良く観察しつつ苦痛や不快をなるべく減らすよう支援の見直しを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常のケアを通じて利用者の意向を把握している。表出困難な場合は表情、仕草、声の調子等から意向を推察し本人に聞いて確認する方法をとっている。</li> <li>・把握した内容は必要に応じて申し送りノート等で職員共有している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査などで得た情報を活用し、生活歴や馴染みの暮らし方を踏まえたケアプランを作成する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を把握し変化に気付く事があれば支援方法の見直しを検討していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に関して、職員間で話し合った意見をそのペースに置くとともに本人やご家族の意向も最大限尊重して計画する。完成した介護計画はご家族と本人の同意を必ず頂いている。	・ケアカンファレンスを毎月開催し、医師、家族、職員の意見を参考にしてケア項目についてモニタリングし、6か月毎に内容を見直している。必要に応じて途中見直しをしている。 ・項目内容は家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を適宜参照しつつ、変化を見逃す事なく観察した内容を介護計画や実際の介護の方法の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様に楽しんで頂けるレクを日々取り入れ実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は入居後は当施設の設備、職員で支援を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、本人の気持ちとご家族のご要望を大切に施設と医療の連携を取りすすめている。	・訪問診療は、内科医は1か月2回、歯科医は口腔ケアを含め1か月2回行っている。訪問看護師は週1回訪問している。 ・通院は原則家族が同伴することになっている。診察結果は家族から口頭でもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護や処置に関して医師や看護師の意見を聞くようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	万一、入院となった際には入所してから入院に至るまでの経過など治療に役立つ情報を積極的に提供し治療の円滑な推進と早期退院に繋がる手助けを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り期に入るとご利用者の説明に関しては、医師にご協力いただきご家族の話し合いを丁寧に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所方針方針は、入所時に本人、家族に説明し同意書をもって</li> <li>いる。</li> <li>・看取りに入る際には、家族、医師、事業所管理者と話し合い、今後の看取りケア方針を決めている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回緊急対応に関する30分研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施し、万一の際には落ち着いて避難誘導ができるように職員の教育とご利用者様への説明を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は夜間想定を含め、年2回行っている。訓練の際は大声を出す、人数確認を行うことを大切にしている。</li> <li>・災害備蓄品は、水、食料を3日分、ヘルメット、防寒具等をリスト管理している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の声かけは他のご利用者様の前で直接的な表現を避けるなど自尊心を傷つけてしまわないよう気を配っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーの確保については、おむつ替えをトイレで行なう、入浴時の脱衣場では一人にするなど配慮している。</li> <li>・管理者が職員の行動で不適切なことを感じた場合は、その場で注意している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの声かけはなるべく選択肢を提示するのみで最終決定はご利用者様に任せるなど、ご利用者が主体的に毎日をすごせるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身で希望を伝えるのが困難な方に関しては、職員が様子を観察し働きかけ、なるべく快適にお過ごし頂けるように努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら整容される方に関しては、なるべくご自身でやって頂き、必要な時はお手伝いする。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様ができるお手伝いに関しては、無理のない範囲で力を活かして頂きお手伝いをお願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材は、業者に依頼し、定期的に配送されている。</li> <li>・食後のお盆拭きを手伝える利用者がある。</li> <li>・誕生会、お雛様・七夕等の行事食には、利用者の希望を聞いてお寿司などの好みのものを出している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の様子を見ながら、食事形態の変更を行い食事を美味しく召し上がって頂いている。また水分に関しては摂取量に気をつけてこまめに提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方に関してでもできるだけご本人にお任せし、職員が介助する必要のある方のみお手伝いをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なオムツ使用は避け極力トイレにて排泄できるように、定時でトイレ誘導を行っている。	・排泄チェック表から利用者一人ごとの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。 ・自立の利用者が7名いるが、排泄後声掛けをして、排泄状況の確認をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便の日数記録を記録し、便秘にある方に関して往診Drに相談の上排便できる薬の処方をお願いする。また、ご利用者様の中には便秘マッサージや歩行訓練を利用されている方もいらっしゃいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様のその日の様子や希望を踏まえた上で、入浴予定のスケジュール調整をしている。	・入浴は週2回、午前中に行なっている。日曜日は入浴なし日にして、レクに当てている。 ・入浴剤を使用したり、菖蒲湯・柚子湯などを行なっていくつろいで入浴できる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人ごとに午後の睡眠タイムを設け適宜夜の睡眠以外でもベッドに横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診において、ご利用者さまの状態の変化に応じ薬の種類や容量の変更などを相談し、薬を把握した上で、個人にあった薬の処方に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の得意とするものをひきだし、日々の活動に取り入れ変化のある暮らしを心得ている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と同伴で外食や外泊はされていますが現状、施設全体では行かない状況です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも、天気の良い日には事業所周を30分程度かけての散歩は行っていた、</li> <li>・通院時に家族と外食をする利用者もいる。</li> <li>・利用者の体力維持のため、体操や、歩行訓練を行なっている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のお金の管理は、認知症の為ご自身で出来ないため、日用品等、購入の際は立替金として施設で払い請求書と一緒に清算になる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては携帯を持っている方もいらっしゃる個人にお任せしている。お手紙はやり取りされている方はいない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出も中々難しい状況で施設に居らっしゃる時間が多いので施設内で季節を感じる飾りつけを工夫し心地よい環境を心得ている。	・コロナが5類に移行した後も、リビングの清掃・消毒・換気は、コロナ期の体制を継続している。 ・リビングでは、席を仲の良い人同士で決めたり、利用者同士の会話が弾んで、日中一緒のいることが楽しい雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでお過ごしの際は、気の合った方同士で話しができる環境を作り、以後ごち良い時間を持っていたできるように工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋のレイアウトはご自身の大切な物を飾ったり、好みに合わせて配置をお願いしている。	・居室のエアコ・ン・防災カーテン・ベッド・箆箆・クローゼットは事業所が設備し、利用者は家族の写真・TV・自分の作品等で自分の部屋造りをしている。 ・居室の清掃・整理整頓は早番職員が行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は絨毯がひかれ、歩きやすい環境づくりはされている。歩行が出来る方には、できるだけADLが落ちてしまわないように体操を取り入れたり、ご自身の出来ることをやって頂くようにしている。		

事業所名	ミモザ川崎たちばな
ユニット名	3階 すいせん

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ すい
	○ 2, 利用者の2/3くらいの
	○ 3, 利用者の1/3くらいの
	○ 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	○ 2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまにある
	○ 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	○ 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	○ 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	○ 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	○ 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	○ 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	○ 2, 家族の2/3くらいと
	○ 3, 家族の1/3くらいと
	○ 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまに
	○ 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	○ 3, あまり増えていない
	○ 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	○ 2, 職員の2/3くらいが
	○ 3, 職員の1/3くらいが
	○ 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	○ 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	○ 3, 家族等の1/3くらいが
	○ 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に作成された事業所理念を事務所内に掲示して職員間での理念の共有を行っている。フロア会議でも理念を振り返り話し合う場を設けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在行えておりません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行えておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で中断していた促進会議は復活し地域包括、民生委員、併設の看護小規模多機能の管理者と情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎市高津区の他の施設と行政の方を交え2か月に1回情報交換の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に一回「身体拘束廃止委員会」を実施し、身体拘束の発生を未然に防ぐように話し合いを行っている。研修に関しては年に2回行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、研修を実施。どのような事が虐待となるのかを詳しく学び、理解を深めてもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度に関しては、必要と思われた方には管理者が提案を行い相談の上以降している。職員に対しては特に研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約に関して必要な事を説明している。不明点があればその都度質問を受付納得して頂き特に金銭の事柄に関してトラブルを未然に防ぐため、丁寧な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の要望に応えようと、毎月生活状況を報告しご利用者様の写真を送っている。ご利用者の意見やご家族の要望はケアプラン見直しで取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や施設の改善点は毎月のフロア会議で話し合っている。ご利用者のケアに関しても、気付いた事があれば職員全員で周知できるようアイパットの申し送りを入力し確認できるようにしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップのプランや社内の人事関係の制度、給与支給の内容を閲覧できるようやりがいのある職場に工夫している。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的な資格に関して、受講費の補助や有資格者の優遇がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム管理者の話し合いは2か月に1回も設けており役所の保護課の方と地域包括の代表者も出席されている。同業者の情報を聞く事によりとても参考にさせて頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査の際に、本人の不安や要望に関してヒアリングし、その際にご家族やケアマネからも不安や情報を収集し信頼関係に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査や施設見学の際にご家族から要望や不安をヒヤリングしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム内で完結させる事を原則としつつも、訪問マッサージなど個々の必要性に合わせた外部サービスの活用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ごとの様子を見つつ職員が行う業務の一部を手伝って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の意思を尊重しつつ協力頂ける事があれば助力をお願いしている。(ご利用者様の栄養補給食品、好きな食べ物等)		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員の方から積極的に働きかけてはいますが、ご依頼があった時には要望をお聞きしお応えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の相性を見つつ、話の合いそうな方同士を近くの席にし、安心できる環境づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了の主な理由は、ご逝去、他病院への転居、他施設の移動。その際は転居先のケースワーカーと連絡を取り対応に注意する点などお伝えしております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者から何か希望があれば危険や無理のない範囲で応えるようにしている。またご自身で意思を示す事が難しい方に対しては本人の様子を良く観察しつつ苦痛や不快をなるべく減らすよう支援の見直しを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査などで得た情報を活用し、生活歴や馴染みの暮らし方を踏まえたケアプランを作成する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を把握し変化に気付く事があれば支援方法の見直しを検討していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に関して、職員間で話し合った意見をそのペースに置くとともに本人やご家族の意向も最大限尊重して計画する。完成した介護計画はご家族と本人の同意を必ず頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を適宜参照しつつ、変化を見逃す事なく観察した内容を介護計画や実際の介護の方法の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様に楽しんで頂けるレクを日々取り入れ実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は入居後は当施設の設備、職員で支援を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、本人の気持ちとご家族のご要望を大切にし施設と医療の連携を取りすすめている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護や処置に関して医師や看護師の意見を聞くようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	万一、入院となった際には入所してから入院に至るまでの経過など治療に役立つ情報を積極的に提供し治療の円滑な推進と早期退院に繋がる手助けを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り期に入るとご利用者の説明に関しては、医師にご協力いただきご家族の話し合いを丁寧に行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回緊急対応に関する30分研修を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施し、万一の際には落ち着いて避難誘導ができるように職員の教育とご利用者様への説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の声かけは他のご利用者様の前で直接的な表現を避けるなど自尊心を傷つけてしまわないよう気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの声かけはなるべく選択肢を提示するのみで最終決定はご利用者様に任せるなど、ご利用者が主体的に毎日をすごせるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身で希望を伝えるのが困難な方に関しては、職員が様子を観察し働きかけ、なるべく快適にお過ごし頂けるように努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら整容される方に関しては、なるべくご自身でやって頂き、必要な時はお手伝いする。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様ができるお手伝いに関しては、無理のない範囲で力を活かして頂きお手伝いをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の様子を見ながら、食事形態の変更を行い食事を美味しく召し上がって頂いている。また水分に関しては摂取量に気をつけてこまめに提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方に関してでもできるだけご本人にお任せし、職員が介助する必要がある方のみお手伝いをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なおむつ使用は避け極力トイレにて排泄できるように、定時でトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便の日数記録を記録し、便秘にある方に関して往診Drに相談の上排便できる薬の処方をお願いします。また、ご利用者様の中には便秘マッサージや歩行訓練を利用されている方もいらっしゃいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様のその日の様子や希望を踏まえた上で、入浴予定のスケジュール調整をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人ごとに午後の睡眠タイムを設け適宜夜の睡眠以外でもベッドに横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診において、ご利用者さまの状態の変化に応じ薬の種類や容量の変更などを相談し、薬を把握した上で、個人にあった薬の処方に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の得意とするものをひきだし、日々の活動に取り入れ変化のある暮らしを心得ている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と同伴で外食や外泊はされていますが現状、施設全体では行かない状況です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のお金の管理は、認知症の為ご自身で出来ないため、日用品等、購入の際は立替金として施設で払い請求書と一緒に清算になる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては携帯を持っている方もいらっしゃる個人にお任せしている。お手紙はやり取りされている方はいない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出も中々難しい状況で施設に居らっしゃる時間が多いので施設内で季節を感じる飾りつけを工夫し心地よい環境を心得ている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでお過ごしの際は、気の合った方同士で話しができる環境を作り、以後ごち良い時間を持っていただけるように工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋のレイアウトはご自身の大切な物を飾ったり、好みに合わせて配置をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は絨毯がひかれ、歩きやすい環境づくりはされている。歩行が出来る方には、できるだけADLが落ちてしまわないように体操を取り入れたり、ご自身の出来ることをやって頂くようにしている。		

# 目標達成計画

事業所名 川崎たちばな

作成日 令和6年3月31日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		感染症(コロナ、インフルエンザ、はしか)があり地域交流ができていない。	感染も落ち着いてきたので、地域の交流を積極的に取り組んで予定を立てる。	1階交流室を使用し、地域の方と気軽に楽しめるイベント企画(夏祭り、お饅頭づくり、運動会、クリスマス会など)	本年度中
2		感染症があり利用者様が外に出る機会が少なかった。	外を歩く時間を増やし、気分転換できるように楽しんでいただく。	職員人数に余裕ある時に外にでてお花見や外の景色を楽しむ。	本年度中
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。